授業風景　　**本科１年**

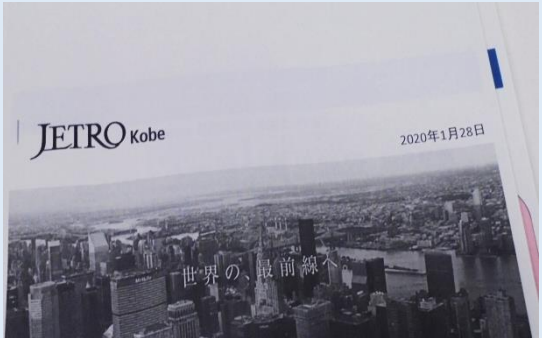
ビジネス基礎

本科１年生の「ビジネス基礎」の授業風景の紹介です。

この授業では、生徒たちにビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させながら、経済社会の一員としての望ましい心構えを身につけるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を学ぶことに目標を置いています。

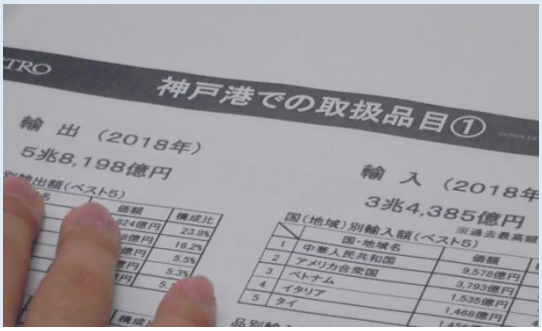
「ビジネス」の内容を一言で説明するのは、そう簡単ではありません。売り手と買い手の間で、ヒト・モノ・カネそして情報が、“取引”と呼ばれる流れの中で、どのように流れ、またその中で携わる仕事が、多種多様であることを知るというのがこの授業です。

神戸の街は、古くから港を介して“取引”が活発におこなわれています。海外との取引は、特に“貿易”といわれています。１月２８日（火）の授業には、貿易の活動をさまざまな角度からサポートしている、日本貿易振興機構（ＪＥＴＲＯ）の神戸貿易情報センターの荒畑稔所長にいらしていただき、貿易について詳しく教えていただきました。

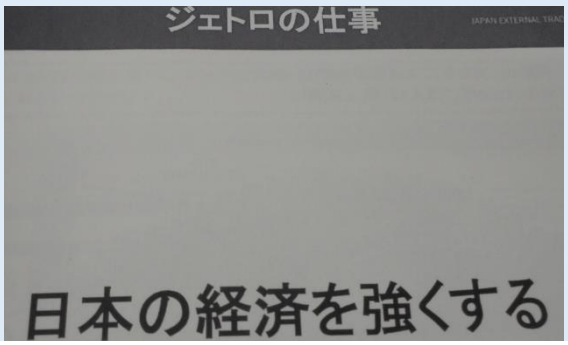


貿易とは何か？今日の話を聞く前から考えている生徒たちも見られました。

荒畑様は、アジアの国や地域でもお仕事の経験があり、わかりやすくお話くださいました。



神戸港を通じて、海外と取引している量や金額が資料を見てよくわかりました。



日本のこれからの経済は、海外との結びつきを大切にする必要性を感じました。

荒畑様からいただいた資料は、とても興味深いものがありました。中でも明治時代のはじめ頃、神戸港から輸出されていたものの第１位が、お茶であったことは、まったく見当がつきませんでした。

生産されたものが順調に消費されることが望ましいのですが、日本では人口の減少や、生産活動の環境が変化したことにより、企業は海外との取引に活路を見いだそうとしています。企業が海外に展開しようとした場合、ことばや文化の違いをはじめ、戸惑うことが多いことを、荒畑様からの話やＤＶＤを見聞きして、私たち全員が改めて感じました。

日本の産業の手助けをされている荒畑様や、スタッフの方の様子を知ることができ、新鮮な勉強になりました。